

# 造山古墳発掘調査現場公開資料

岡山市教育委員会  
日時：令和6年10月20日（日）  
場所：岡山市北区新庄下（発掘現場）

## ○造山古墳の概要

造山古墳は全国で4番目の規模を誇る前方後円墳で、5世紀前半の築造が考えられます。墳長は350mであり、三段築成でくびれ部には造り出しが付属します。主たる埋葬施設や副葬品は不明ですが、前方部の頂上には阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が存在しています。これまでの調査で、斜面にかかる葺石やテラスからは埴輪列などがみつかっています。また、築造後は備中高松城水攻めの際に城郭として使用され、現在でも土塁や曲輪、堅堀などの遺構が確認できます。

## ○調査成果について

今年度は、後円部墳頂から前方部にかけての部分に調査区を設定し、造山古墳の将来的な整備に向けて、備中高松城水攻めの際に古墳をどのように利用したのか、それに伴って古墳はどう改変されたのかなど、複合的な遺構の実態を把握する目的で調査を行っています。

## ●曲輪

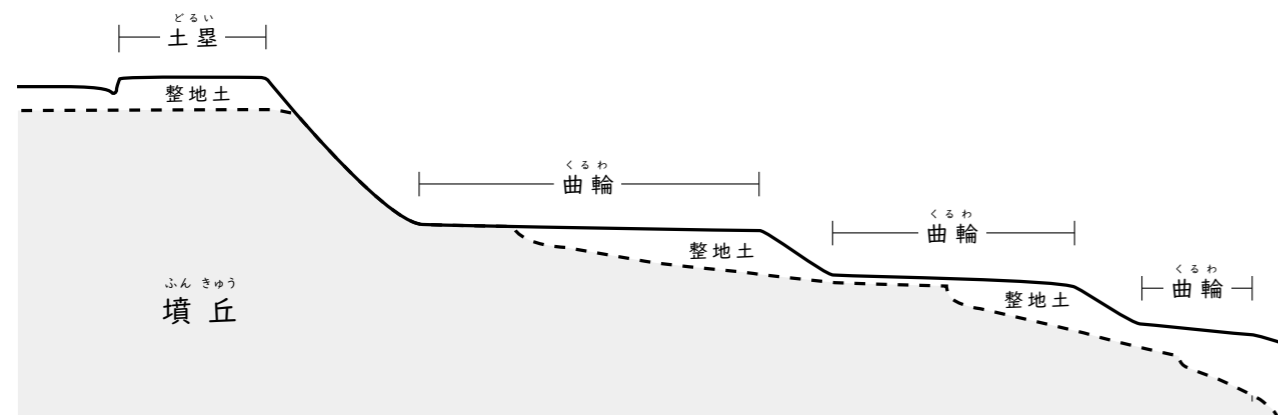
現在、後円部墳頂から前方部にかけての部分は曲輪が階段状に連なっていますが、古墳築造当時には、後円部墳頂へ登る斜面があったとみられます。土層観察により、曲輪の平坦面は、本来斜面であった墳丘を一部では削り、また一部では盛り直すことで高さを整えていることが確認できました。このような曲輪の築造方法は、令和4年度に調査した後円部東側斜面の曲輪と同じですが、東側の曲輪とは異なり、葺石を再利用したと思われる土留めのための石列は検出されませんでした。また、調査区内の曲輪検出面から、柱穴とみられる遺構を数基検出しました。

## ●出土遺物

今回の調査で出土した遺物のほとんどは埴輪片です。多くは曲輪の整地土内から出土しており、平坦面をつくる際、埴輪ごと墳丘の土を削平したため整地土内に紛れ込んだものと思われます。

## ○さいごに

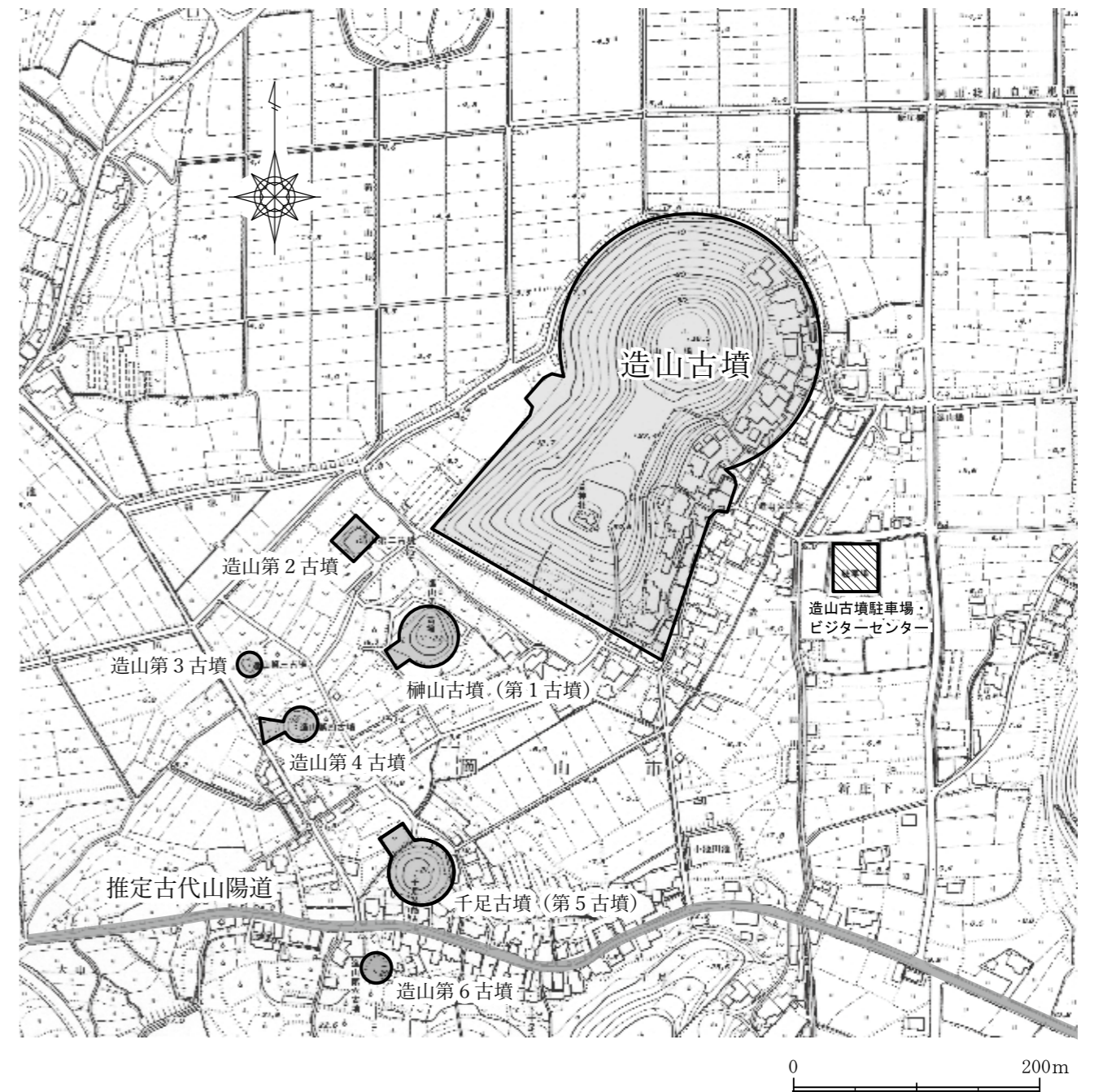
令和4年度からの3年間の調査により、造山古墳の後円部墳頂付近の様子が少しずつ明らかになりました。香川県産の安山岩を使用した施設が存在すること、そして高松城水攻めの際に墳丘を一部改変していたこと、その後も耕作地として使用されていたことなど、1600年近くにわたる古墳時代から現代までの人々の営みを知ることができました。しかし、墳丘斜面の角度が緩いことや、安山岩の板石の性格など多くの課題も残されました。今後も慎重に調査・検討を行い、整備に活かしていきたいと思います。



図：曲輪の築造方法（推定）

## ○はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳の範囲確認調査を9月下旬より進めており、この度、確認された遺構を一般に公開するはこびとなりました。今回の発掘調査は、後円部墳頂から前方部にかけての斜面における城郭遺構の確認と古墳本体の残存状況の確認を目的として行っています。調査の結果、城郭遺構である曲輪と、古墳の盛土を検出しました。







R 6 調査区

R6 T6

R6 T7

R5 T5

R5 T4

R4 T2

R4 T3

R4 T1

0  
50 m

